



# 大和川の上流域「三輪山麓(朝倉・海石榴市・纏向)」散策の記録

観察河川：大和川(初瀬川)、巻向川

1. 日時： 令和元年7月11日(木)10時00分
2. 集合場所： 近鉄大阪線大和朝倉駅
3. 参加者： 13名



今回は大和川上流域(初瀬川)の三輪山麓を散策し、古代ヤマト王権王宮跡地、大神神社、桜井市埋蔵文化財センター、纏向古墳群などを見学した。

当日の天気はこの時期特有の雨模様で参加者は13名と少なめであったが、朝の集合時刻には雨がやんでおり大和朝倉駅から元気にスタートする。初瀬川沿いの河川公園には「仏教伝来の地」の石碑など古代ヤマト王権を偲ばせるモニュメントがいくつか点在していた。ここでとりわけ印象に残ったのは海石榴市(ツバイチ:河港に併設された古代有数の交易市場)の繁栄ぶりを示した壁画である。当時はこの地から大和川を下り河口の難波津に至る水運が整備されており人と物流のターミナルとして賑わっていたのであろう。



金屋河川公園内に  
ある海石榴市の  
タイル壁画

海石榴市の推定地とされる金屋から山の辺の道に入り、金屋の石仏、磯城瑞離宮跡などを経て平等寺に至る。ここは大神神社の神宮寺の1つであったが、今は曹洞宗の寺院である。境内で意外なものを見つける。薩摩島津家ののぼり旗が立っていた。慶長5年の関ヶ原の戦いに敗れた島津義弘はこの寺に落ちのび、しばらく逗留した後、堺を經由して本国薩摩へ無事に戻ったと伝えられている。薩摩藩ではその恩を忘れず江戸期を通じ毎年米と銀子を寄進していたとのことである。その後、大神神社の休憩所で昼食をとり、二の鳥居前で集合写真を撮る。



平等寺赤門下で石柱を観察



薩摩島津家ののぼり旗



大神神社二の鳥居前で記念撮影

昼からは纏向古墳群を散策する予定であるが、その前に桜井市立埋蔵文化財センターへ立ち寄り纏向遺跡全般について学習する。始めに向ったのは茅原大墓古墳である。小雨の中、墳丘の上に登ると地元の人が草刈中であったが手を休めそこから一望できる大和三山をはじめ山々を説明してくれた。そこからしばらく歩くとホケノ山古墳に出会う。この古墳は茅原大墓古墳と同じくホタテ貝型古墳であるが、築造年が古く3世紀中頃に邪馬台国の時代と重なる。その後箸墓古墳を左手に見ながら田圃沿いの道を歩いている時、誰かが赤いジャンボタニシの卵を発見。よく見ると田圃の中に赤い卵と親貝がいっぱい繁殖していた。正式名称はスクリノガイで重点対策外来種に選定。



箸墓古墳後円部の遠景



稲苗に産み付けられたジャンボタニシの卵塊



仮整備された纏向遺跡辻地区の建物群跡

予定では箸墓古墳の外周路を散策することになっていたが、取りやめてJR巻向駅へ直行する。駅前で休憩後、オプション参加である纏向遺跡の建物群跡への見学組と車で待機組(ビールで乾杯?)に分かれる。その後合流してJR巻向駅からローカル線に乗り桜井駅で流れ解散し全員無事に帰路につく。